

木製介護福祉椅子の開発

～医福工連携事業 医療福祉デザイン研究会の取組みを通じて～

小野大輔、赤田朝子、工藤洋司、舘山 大、濱田 圭（弘前工業研究所）
宮下育也、奥田雄人、宮田和弥、葛西 裕（工業総合研究所）

要約

福祉介護分野の専門家や県内事業者からなる研究会を組織し、医療福祉分野のニーズに即した木製介護福祉椅子を開発、商品化しました。

研究の概要

1. 背景・目的

医療福祉分野での県内産業の振興のため、介護専門家、県内製造・販売事業者、医療福祉関係者等による『医療福祉デザイン研究会』を組織しました。研究会はビジネスプラットフォーム(図1)として活動し、現場ニーズを踏まえての新規商品開発と商品化に取り組みました。

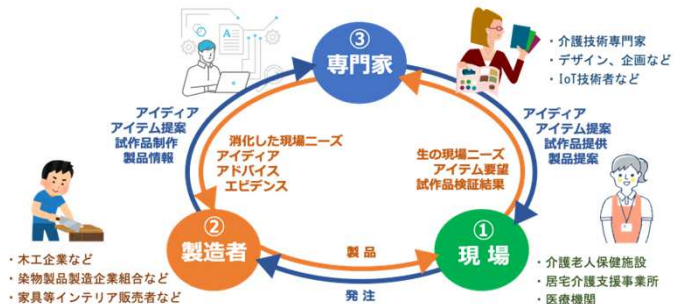


図1 研究会とビジネスプラットフォーム

2. 内容（木製福祉椅子の開発）

研究会で取組製品を介護椅子に選定、仕様設計し、商品化しました。

- (1) ニーズ調査、開発品の選定、仕様検討(表1)
- (2) 会員企業の技術を活かした試作と改良
- (3) 会員施設での試用検証、展示会での調査
- (4) 会員企業による商品化、PR、販路開拓

表1 福祉椅子へのニーズ調査と解決策（抜粋）

現場のニーズ	今回の解決策
着座時の安定感	安定した脚部、座面、肘掛の位置関係と形状などを吟味
介助者の押し引きのし易さ	ソリのような畳摺式の脚部など
車椅子などからの移乗のし易さ	前端の支柱がない短めの肘掛、大きめな座面
立ち座りのしやすさ	大きく丸みのある座面、手掛りになる肘掛形状
着座姿勢の自由度	大きな座面、広く弧を描いた肘掛と背、安定した脚部など

3. 商品化と研究会の活用

開発した椅子(図2)は会員企業等を通じて令和4年に商品化、全国の福祉施設等に多数納品され、好評を得ています。

研究会はビジネスプラットフォームとして販路開拓や更なる商品開発に活用されており、現在はこの椅子を活かしたIoT椅子の開発にも取り組んでいます。



図2 たんげいい椅子（成果品）

関連情報

商品化・実用化：わにもっこ企業組合様を窓口、「TANGE ii ISU (たんげいい椅子)」として商品化されています。

弘前工業研究所 デザイン推進室
Tel 0172-55-6740 Fax 0172-55-6745
E-mail kou_hirosaki@aomori-itc.or.jp



青森産技

あおもりの未来
技術でサポート